

九州工業大飯塚キャンパス（飯塚市川津）で実験・演習の補助など大学業務を支援する技術部が4日、独自に開発したフェースシールド300個を同市小学校長会に寄贈した。

同市役所であった贈呈式で、同部の荒川等副技術長は「フェースシールドは、マスク不足が問題となって

フェースシールドを寄贈

九工大技術部開発

飯塚市小学校長会に



フェースシールドを寄贈した九州工業大の荒川等副技術長（中央）ら

問題を解消してくれる」と話した。

荒川副技術長によると、在宅勤務期間中に同部技術職員が、市販のフェースシールドを3Dプリンターで複製するなどして構造を研究。頭の締め付けが強すぎず、安定感が高い製品を開発した。

寄贈されたものは、市内全19校のクラス担任282人に配布されるという。

（長美咲）